

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年4月6日

報告番号 乙	第号	氏名	野口 亮
審査員		主査	相馬 慎一
		副査	吉岡 元入
		副査	齊藤 亮介
論文題名	<p>題名 Development of three-dimensional pre-vascularized scaffold-free contractile cardiac patch for treating heart disease</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 The journal of Heart and Lung Transplantation, 35;137-145, 2016</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本研究では、細胞が有する凝集現象(スフェロイド)を利用して、心不全治療に応用可能な機能的で立体的な心筋組織を開発した。まず、ラット胎児由来の心筋細胞、ヒト真皮の線維芽細胞、ヒト冠動脈の血管内皮細胞を混合して、心筋組織型スフェロイドを形成し、3次元化効率、凝集速度、細胞動態、拍動効率を解析し、最適な細胞比率の条件を検討した。その結果、血管網を有する心筋組織型スフェロイドを作製することができ、互いに融合することを確認した。これらのスフェロイドを大量に融合させ、1cmほど同期して拍動する3次元心筋構造体を構築し、ヌードラットへ移植したところ、構造体内部に血管網を保持したまま生着することを確認した。</p> <p>本手法は、外来異物を利用せずに細胞の自己凝集能によって心筋細胞を機能的に立体化させることができ、心臓に生着させることができた。以上の結果は、次世代型の新規再生医療技術として発展していく可能性があり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>基本的な循環器の知識や細胞培養法など、種々の質問を行い、いずれについても満足すべき答を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行い、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成28年4月6日	最終試験日	平成28年4月6日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年6月2日

報告番号 乙	第号	氏名	下村光洋
審査員		主査	阪本 勉一郎
		副査	川口 三郎
		副査	齊藤 亮介
論文題名	<p>題名 Acute effects of statin on reduction of angiopoietin-like 2 and glyceraldehyde-derived advanced glycation end-products levels in patients with acute myocardial infarction: an message from SAMIT (Statin for Acute Myocardial Infarction Trial) Heart and Vessels, 2015 Dec 23. Epub ahead of print</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は急性心筋梗塞患者における急性期からのスタチン投与の心保護作用を評価された論文である。</p> <p>検討手法は多施設共同前向きオープンラベル無作為試験でアトルバスタチン投与群と非投与群に無作為に振り分けて速やかに内服後に経皮的冠動脈形成術を施行し、梗塞サイズと左心機能を主要評価項目として主要有害心脳血管イベントとバイオマーカーを副次的評価項目と定めている。結果はアルトバスタチン群で6ヶ月後の左室駆出分画の優位な改善と2週間後のAngiopoietin-like protein2の増加抑制とToxic advanced glycation end-productsの低下をいずれも優位に認めた。</p> <p>以上の結果は心筋梗塞後早期のアトルバスタチン服用がAngiopoietin-like protein2とToxic advanced glycation end-productsに影響し心保護作用を期待できる有益なものである。</p> <p>よって、本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>研究領域に関する学力の確認は口頭試問で行なった。</p> <p>種々の研究内容や関連事項に関する質問を行ない、詳しい説明を求めたが、いずれも満足すべき答弁であった。</p> <p>外国語に関しては英語の試問を行なっており、外国語文献を自由に利用しうる能力と判断されている。</p> <p>総合的に審査員の合議によって本研究科博士課程を終了したものと同等以上の学力を有し、研究指導能力も十分と認めると判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成28年6月2日	最終試験日	平成28年6月2日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年7月7日

報告番号 乙	第号	氏名	松尾 俊哉
審査員		主査	相鳥慎一
		副査	永田秀二
		副査	野口満
論文題名	<p>題名 Multifunctionality of PAI-1 in fibrogenesis: Evidence from obstructive nephropathy in PAI-1 overexpressing mice</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Kidney International, Vol. 67 (2005), 2221-2238</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>慢性腎疾患における間質の線維化機序は不明であるが、線溶系制御因子であるプラスミノーゲンアクチベーター阻害因子1(PAI-1)には炎症反応蛋白としての側面があり、PAI-1が腎間質の線維化に果たす意義を明らかにすることが本研究の目的である。PAI-1過剰発現マウス(PAI-1tg)と野生型マウスの片側尿管閉塞モデルを作成し、尿管閉塞後第3日、7日、14日で両群において、①線維化の程度、②PAI-1発現、③筋線維芽細胞とマクロファージ集積の程度、④線溶系の状態(uPA活性)を比較した。その結果、線維化の程度は組織学的にも定量的にもPAI-1tg群に強く認められた。PAI-1tg群では筋線維芽細胞とマクロファージの集積がより強く、uPA活性は低下していた。遺伝子マイクロアレイ試験の結果、線維化や線溶系に関わる遺伝子の発現亢進および抑制を認めた。</p> <p>以上の結果は、PAI-1が間質線維化抑制のための治療標的となりうる可能性を示唆しており、新しい知見を加えた意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行い、腎臓病学に関する質問を行い特にPAI-1の機能について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究を指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行い、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成28年7月7日	最終試験日	平成28年7月7日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年 8月10日

報告番号 乙	第 号	氏 名	江頭 秀哲	
審 査 員		主査	森田 茂樹	
		副査	水口 昌伸	
		副査	中國 貴志	
論文題名	題名 Percutaneous high-energy microwave ablation for the treatment of pulmonary tumors: a retrospective single center experience			
	雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Journal of vascular and interventional radiology 27(4):474-479, 2016			
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、肺腫瘍の治療における高エネルギークロ波焼灼療法 (MVA) の安全性と有効性を検証したものである。</p> <p>本論文では肺腫瘍患者 44 人に対して 62 回の MVA を行った事例にたいして、手技の成功率、局所の腫瘍の制御率、合併症などを後方視的に検討している。適応となつた症例は原発性肺がんの 2 例を除いては、肉腫、結腸直腸癌、食道癌、乳癌、膀胱癌などの転移であり、いずれも肺葉切除などの外科的治療ができない症例である。</p> <p>手技の成功率は 94%、局所制御率は 98%、と有効な治療法であることが示された。安全性に関しては気胸の合併が 19%に認められたが、血痰や感染などの合併症は生じておらず、十分安全な手技であると結論づけられている。</p> <p>以上の成績は MVA が有効かつ安全な治療法であることを具体的なデータに基づいて示したものであり、臨床的な意義も大きい。また方法論の特徴や問題点、MVA の原理や臨床的な位置付けにかんしても Discussion で適格に議論されており、学位論文にふさわしい内容であると判断した。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>			
	論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
	論文審査日	平成 28 年 8 月 10 日	最終試験日	平成 28 年 8 月 10 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 28 年 9 月 9 日

報告番号 乙	第号	氏名	藤原 元嗣
審査員		主査	安西 慶三
		副査	岩切 龍一
		副査	能城 浩和
論文題名	<p>The symptoms of gastroesophageal reflux disease correlate with high body mass index, aspartate aminotransferase/alanine aminotransferase ratio and insulin resistance in Japanese patients with non-alcoholic fatty liver disease. (日本における非アルコール性脂肪性肝疾患患者では逆流性食道炎症状と BMI、AST/ALT 比、インスリン抵抗性が相関する)</p> <p>Internal medicine, 54 卷, 3099-3104 頁, 2015 年</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) と診断されている患者の群で BMI と逆流性食道炎 (GERD) の症状がどのように関連しているのかについて述べている。評価方法として GERD 症状を表す F スケール、NAFLD 患者群ではさらに AST、ALT、インスリン抵抗性を表す指標である QUICKI を用いた。これによると NAFLD の患者群では F スケールの値が BMI と中等度の相関を示したが、検診受診群では相関を示さなかった。また NAFLD 患者群において BMI は F スケールのうち胃酸逆流に関するスコアと相関を認め、AST/ALT 比と QUICKI スコアは腸管蠕動不全に関するスコアと負の相関を認めた。この結果、日本人の NAFLD 患者において、BMI によって表される肥満は GERD 症状を増悪させる危険因子であることが示された。以上の成績は、肥満の NAFLD 患者と GERD 症状との関係について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>消化器学に関し、種々質問を行い、特に NAFLD と GERD について詳しい説明を求めた。質疑の中で研究の方法、統計学的解析および考察について一部不明確な点があつたため、書面による回答を求めた。その結果満足すべき答弁および回答を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成 28 年 8 月 9 日	最終試験日	平成 28 年 8 月 30 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 28 年 11 月 2 日

報告番号 乙	第号	氏名	山本一道
審査員	主査	能城 浩和	
	副査	高倉 有子	
	副査	吉川 浩二郎	
論文題名	<p>題名 Long-term survival after video-assisted thoracic surgery lobectomy for primary lung cancer.</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Ann Thorac Surg. 89(2), 353-9, 2010</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は原発性肺癌に対する胸腔鏡下肺葉切除 (VATS) の適応および長期成績を検討したものである。その研究方法は 2000 年 5 月から 2003 年 12 月までに国立病院機構姫路医療センターにて施行された原発性肺癌に対する肺切除のうち、VATS を予定された 325 例を後ろ向きに検討を加えたものである。結果として VATS を計画された 325 例のうち、21 例 (6.4%) が開胸術に移行したものの、術後在院死は一例 (0.3%) で、全生存および非担癌 5 年生存率はそれぞれ I a 期 85%、83% (192 例)、I b 期 69%、64% (50 例)、II 期 48%、37% (27 例)、III 期 29% (50 例) であった。また VATS 症例の割合は年ごとに増加し、前 2 年 50%、後 2 年 80% だった。研究期間を通じて長期成績、特に早期肺癌に対するそれはほぼ一定であった。以上の結果より、悪性疾患に対する VATS は、実行可能性があり長期成績も開胸手術に遜色なく、経験を積んだ施設において VATS は、特に早期癌に対しては標準治療となる可能性が示唆された。</p> <p>以上の成績は、肺癌手術において胸腔鏡補助下手術の有用性を示すものであり、意義あるものと考えられる。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>呼吸器外科学に関し、種々質問を行い、特に胸空鏡補助下肺癌手術について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	最終試験の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成 28 年 11 月 2 日	最終試験日	平成 28 年 11 月 2 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年11月5日

報告番号 乙	第号	氏名	中村 恵
審査員		主査	安西 廣三
		副査	佐山 さち子
		副査	木田 鳥 塩一
論文題名	<p>題名 Somatostatin analogue attenuates estrogen-induced augmentation of glomerular injury in spontaneous hypercholesterolemic female Imai rats.</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Nephron, 89, 448-454, 2001</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、エストロゲン補充療法(ERT)による糸球体障害に与える影響について雌の高脂血症自然発症(SHC)ラットを用いて述べている。</p> <p>これによると、雌SHCラットをコントロール群、エストロゲン単独投与群、エストロゲン+ソマトスタチンの低用量群と高用量群の4群に分けて検討した。評価は尿蛋白、血清学的検査および糸球体の形態学的検査を行った。その結果、エストロゲン投与群は、尿蛋白排泄率増加と血清T-CHO値の上昇および成長ホルモンの増加を伴って糸球体障害の増悪を認めた。一方でソマトスタチン追加群では、尿蛋白排泄率および血清T-CHO値ともに減少し、成長ホルモンの低下に伴って糸球体障害がコントロールレベルまで軽減された。</p> <p>以上の成績は、雌SHCラットのエストロゲンによる腎障害の増悪にはGH上昇の関与が大きいことが示され糸球体障害とホルモンについて、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>腎臓学に関し、種々質問を行い、特に腎機能と内分泌について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した</p>		
文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	平成28年11月1日	最終試験日	平成28年11月1日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成28年12月 7日

報告番号 乙	第号	氏名	大石 光寿		
審査員		主査	宮富 第一郎		
		副査	中園 肇		
		副査	山下 佳雄		
論文題名	<p>題名 Patterns of failure after postoperative intensity-modulated radiotherapy for locally advanced and recurrent head and neck cancer 雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Japanese Journal of Clinical Oncology, August 10, 1-9, 2016. (Epub)</p>				
論文審査結果の要旨	<p>強度変調放射線療法 (IMRT) は唾液分泌の保持など、頭頸部癌患者の QOL を維持する放射線治療として有用であるが、照射辺縁部の再発が問題となる。本論文は頭頸部癌に対する術後 IMRT の実行可能性を、本治療を受けた 122 例の頭頸部癌患者についてレトロスペクティブに調べ、検討したものである。</p> <p>頭頸部癌手術切除組織の病理で断端陽性、転移リンパ節節外浸潤などの予後不良因子があれば、術後照射が追加される。著者らは進行・再発頭頸部癌患者の術後に、切除組織の予後不良因子に応じて照射野を高、中、低リスクの 3 段階に分類し設定し、それぞれ 66、60、54Gy の IMRT を行い、その後の予後や再発パターンを検討した。</p> <p>その結果、5 年粗生存率、無増悪生存率、無遠隔転移生存率、局所領域制御率はそれぞれ 59%、48%、52%、71% と従来の報告と同程度であり、再発パターンは照射領域内が 26 例と多く、IMRT で課題となる辺縁部再発は 5 例と少數であった。有害事象は軽度であり、grade 3 の粘膜炎が 36 例で grade 4 はみられず、治療完遂率は 98% と良好であった。</p> <p>以上の研究は、頭頸部癌術後照射としての IMRT の有用な照射野設定方法を示したものであり、その治療効果と安全性に基づいた高い実行可能性が報告され、頭頸部癌術後の新たな追加治療につながる臨床的研究として意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>放射線治療学や頭頸部腫瘍学について専門的な質問を行い説明を求めたが、満足できる答弁が得られ、大学院博士課程修了者と同等の学識を有し、研究遂行の能力も充分と認めた。</p> <p>英語に関しても外国語文献を十分に利用できる能力があると認められた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	平成28年12月 7日		最終試験日	平成28年12月 7日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年1月4日

報告番号 乙	第号	氏名	大西弘高		
審査員		主査	青木淳介		
		副査	江村正		
		副査	吉田和代		
論文題名	<p>題名 Assessment of clinical reasoning by listening to case presentation: VSOP method for better feedback.</p> <p>Journal of Medical Education and Curricular Development. 2016;3: 1-7</p>				
論文審査結果の要旨	<p>本研究は、医学生の臨床推論の到達度を指導医が判定量的に評価する方法論について検討したものである。</p> <p>研究者（大西氏）が2008年に論文誌上（日本内科学会雑誌、およびJ Med Sci）で提唱した臨床推論能力の5段階評価法に基づき、10名の指導医が医学科5年17名のcase presentation（のべ84患者）を評価した。各教員の評価平均値は3.34（±0.73）であり、評価結果のvarianceに有意差を認める結果であったが、各学生間の評価平均値には差が認められなかった。このため、評価スケールは、Vague（漠然とした理解のみ）、Structured（症状・兆候に関する知識は保有しているが鑑別疾患を十分に列挙できない）、Organized（鑑別疾患を列挙できるが、それそれを除外あるいは肯定するためのneed-to-knowの理解が不十分）、Pertinent（Need-to-knowまでを十分にカバーできている）の4段階に再編（VSOP Method）され、それに詳細な定義付けがなされた。本評価法は、筆記試験ではなく、現場での症例提示を通じた臨床推論能力を評価する方法として有用なモデルであると考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	<p>口頭試問により学力の確認を行った。</p> <p>専攻学術に関しては大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>医学教育学に関して非常に深い造詣を有し、論文内容についての審査員からの質問にも、解りやすく、適切な回答を確認することができた。また、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不格	学力の確認の結果	合格	不格
論文審査日	平成29年1月4日		最終試験日	平成29年1月4日	

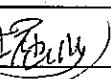
学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年 1月 6日

報告番号 乙	第号	氏名	中平 圭	
審査員		主査	寺本 寛功	
		副査	熊本栄一	
		副査	藤田 亜美	
論文題名	題名 Clinical Concentrations of Local Anesthetics Bupivacaine and Lidocaine Differentially Inhibit Human Kir2.x Inward Rectifier K ⁺ Channels.			
	雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Anesthesia & Analgesia 122(4):1038-1047, 2016			
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は局所麻酔薬、ブバカインおよびリドカインの内向き整流性ファミリー2カリウム (Kir2.x) 電流に対する抑制機序の相違について電気生理学的手法(パッチクランプ法)を用い、調べた内容である。各々の Kir2.x (Kir2.1, Kir2.2, Kir2.3) 遺伝子を HEK293 細胞に強制発現させ、ホールセル法下で記録すると、極めて高濃度のリドカイン (1-10 mM) 投与で Kir2.x 電流は可逆的に抑制されたが、一方、極めて高濃度のブバカイン (1-10 mM) は Kir2.x 電流を非可逆的に抑制した。細胞外の pH を低下させ、局所麻酔薬を塩基性溶液中で電荷型薬物の比率を増加させると各局所麻酔薬の抑制効果は減弱した。インサイドアウト記録法下にて極めて高濃度のブバカイン (10 mM) を細胞膜内側から投与すると Kir2.1 はゆっくりと非可逆的な抑制反応が観察されたが、一方、同様にリドカインおよびQX314 を細胞膜内側から投与すると Kir2.1 は直ちに可逆的な抑制反応が観察された。すなわち、高濃度のブバカインおよびリドカインは細胞膜内側から Kir2.x 電流を抑制した。これらの結果は局所麻酔薬である、ブバカインおよびリドカインの新たな薬理学的作用機序を明らかにした。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
学力の確認 結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>			
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	
論文審査日	平成29年 1月 6日		最終試験日	平成29年 1月 6日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年 2月 1日

報告番号 乙	第号	氏名	染矢 晋佑	
審査員		主査	倉岡 晃夫 	
		副査	堀川 悅夫 	
		副査	浅見 豊子 	
論文題名	<p>題名 Lower limb alignment in patients with a unilateral completely dislocated hip</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 The Open Orthopaedics Journal 10: 448-456, 2016</p>			
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、脚長差 (leg length discrepancy ; LLD) を伴う片側高位脱臼股症例 (Crowe IV) 48 股 (48 人) を対象として、関節拘縮を有する新臼蓋形成群 (IVa 群) と、関節拘縮を欠く殿筋内脱臼群 (IVb 群) に分類し、大腿-脛骨角 (FTA) 等を指標として比較することで、関節拘縮と脚長差のいずれが下肢アライメントに強く影響を及ぼすかを検証したものである。</p> <p>これによると、Crowe IVの患者では、患側は正常だが健側が内反する傾向が強く、windswept deformity (患側外反+健側内反) はIVa、IVb の両群で認められ、その頻度は 12.5% であった。またIVa 群のみで、long leg arthropathy (健側外反) のパターンが 6.3% に認められた。</p> <p>以上の結果は、脚長差はいわゆる windswept deformity を引き起こす原因となり得るが、特に long leg arthropathy は脚長差と関節拘縮の両方が存在する場合に惹起される可能性を示唆し、学術的に意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた</p>			
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>アライメントの評価法や統計学的解析等の研究手法、下肢アライメント異常の進行過程とその臨床的意義、さらに術後に及ぼす影響などに關し、種々質問を行い、詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、その他の専門的学術に關しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究を遂行する能力とともに、外国語文献を自由に利用して欧文論文を作成する能力も充分であることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>			
論文審査の結果	(合格) <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	(合格) <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	
論文審査日	平成29年 2月 1日		最終試験日	平成29年 2月 1日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年3月10日

平成28年3月9日

西

報告番号 乙	第号	氏名	古川 尚子
審査員		主査	安西 康三
審査員		副査	木岡 隆
審査員		副査	原 めぐみ
論文題名	<p>Clinical course of hepatitis B surface antigen positive subjects following screening: A retrospective observational study from April 2008 to January 2013. (スクリーニングで判明したHBs抗原陽性者の経過:2008年4月から2013年1月までの後方視的観察研究) Hepatology Research, 46 (7), 678-685 頁, 2016年</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、佐賀県のHBs抗原の無料検査で陽性が判明した者が精密検査や抗ウイルス治療を受けた割合を明らかにすることを目的としている。 これによると県内医療機関でHBs抗原検査を受けて陽性を指摘された193人について県健康増進課のデータベースと精密検査報告書から収集したデータを解析した。無料検査では193人が陽性で、男性105人、平均年齢55.4歳であった。193人中143人(76%)が精密検査を受け、7人(3.6%)が抗ウイルス治療を受けた。精密検査を受けなかった46人は、受けた者より若かった(平均50.9vs 56.9歳)。要観察と判定された110人のうち、68人(62%)はHBV-DNAを測定しておらず、15人(14%)は日本肝臓学会ガイドライン2014において抗ウイルス治療の適応があった。抗ウイルス薬を受けた人の割合は他国と同程度あったが、観察群に治療適応者が含まれていたことからさらに受診率は上がる余地があると考えた。 以上の成績は、HBs抗原に対する受検・受診・受療について県単位の取り組みに新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。 よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。 内科学および疫学調査に関し、種々質問を行い、特にHBs抗原について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。 また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。 外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	学力の確認の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成29年3月1日	最終試験日	平成29年3月1日